

秘

大正九年七月三日

雙通薦

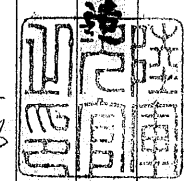
箋課

陸密第一〇九号

雲南派遣將校一部、軍隊見學中止  
ニ關スル件通牒

大正九年七月二日

陸軍次官山梨半造



外務次官植原正直殿  
第一師團管下軍隊見學中ナリシ支那  
雲南派遣將校左記九名六月二十五日見  
學中止ヲ被命候條及通牒候也

左記

楊 養 陳 維 庚 趙 世 銘  
揚 體 震 何 世 雄 譚 宗 敏

廖 鼎 高 任 幹 材 習 自 強 陸 軍

08213

文書課長

大正九年七月五日 接

在在信局易不也 陸軍部



大正

九年

七月

五日

日起草

大岩

同

八月

五日

日附

大正九年七月六日 發送済

機密

機密送第三〇號

主任



政務課



主管通商局長 關了

在本邦

内田大佐

在支那臨時代理之快完

大正九年七月八日 記録第二番



雲南派遣遺留校一部軍隊  
見学中止之案ナル件

外務省

以上筋改修上左陸軍第一師  
團管下軍隊見学中ナリ  
貴不雲南派遣遺留校左記  
九名ハ六月二十五日見学中  
止ヲ被命受茲本月二日附  
ヲ以テ陸軍省ヨリ通牒有  
之矣奈右様ヨリ了知成  
成然右様様之旨ハ本大臣

要再回

ハシタニシテ者其トノ向テ敬意  
ヲ表シテ矣敬具

記

以下は我々月日附陸密才  
一〇九号山梨支友未信中  
左記以下全部抄録す

外務省

受19261號

大正九年七月五日 接覽

陸軍省 陸軍部 第二七八八號

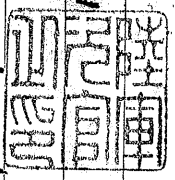
陸軍省 陸軍部 第二七八八號

陸軍省 陸軍部 第二七八八號

雲南省講武學校卒業生本邦留學ニ関スル件  
回答

大正九年七月三日

陸軍次官 山梨 半造  
外務次官 植原 正直 殿



首題ノ件ニ関シ四月十四日通三送第一六八  
號ヲ以テ照會相成候處右ハ入學期日、學  
校名、各學校ニ入學スル人負、學生ノ日本語  
ノ程度等了知、上入學許否ヲ詮議致度  
候ニ付折返申出方支那側ニ御田示相  
成度候也

陸軍

3-2529

0209



Yun... ..

電信案

平



課長 河

大正 九年 七月 五日 起草  
同 年 月 日 附

送第 號

主管通商局長

主任



大岩

在雲南 内田大匠

林田領事館事務代理 龍

第九号

貴電第一三号ニ答ニ

外務省

入学期日、学校名、各学校ニ入学

スキ人員及学生、日付、程

及等、<sup>判明</sup>、上入学、許否ヲ

檢収 <sup>セラル</sup> 取袖回電

電送第 6222 號 申  
9年7月6日 3時20分 送

附屬書類添附

大正九年七月七日 接受

陸軍省

陸軍省

陸軍省

受19596號

支那國陸軍藥劑官修學成績件通牒

大正九年七月六日 陸軍次官 山梨 半

外務次官 埴原 正直 殿



陸軍軍醫學校ニ於テ普通及專攻學生トシテ修學ニ終ル  
タル支那國陸軍藥劑官木子城榮ニ係ル修業成績  
別紙ニ通シ候條支那國公使ニ通牒方御取計相成  
度候也

陸軍

3-2529

0211

別紙

陸軍藥劑官 李斌榮

一、普通學生ノ教育期間ニ於テハ、軍陣調劑學、  
軍陣製劑學、比較藥毒方學、醫科器械學、  
軍事勤務學ノ大要ヲ習得セリ

二、専攻學生期間ニ於テハ、軍陣製劑學ヲ専攻シ  
一般製劑ノ外、蔗糖、ヨリ純葡萄糖ノ製造、  
ヨリ「マンニト」及次度ノ製造、可溶性「アスピリン」  
過酸化砒砂「フエナセチン」「アモイ」  
「クロールアミン」  
「サワカリ」  
「過酸化水素」「クロールズル  
フオン」「酸アンチピリン」「ストローゼ」等ノ製藥法ノ

陸軍

大要ヲ習得シ、高衛、生化學ノ一部タル水質及大氣  
ノ一般検査法、脂肪一般ノ検査法、葡萄糖ノ各種  
定量法ノ概要ヲ了得セリ

三、日本語ハ漸次熟達シ、日常會話ニ支障ナキ程  
度ニ進ミタルヲ以テ、修學上支障ヲ認メス

四、修學期間熱心研究ニ從事シ、成績概シテ良好  
ナルモノト認ム

第20門

文書課長  
大正九年七月九日 接受  
63  
大正九年七月十日 發送済  
主任

大正九年七月九日 起草  
同 九月九日 附  
列紙  
主任  
大正九年七月十日 發送済

主管 通商局長了

在李邦 内田大佐  
在支那臨時代理公使

支那陸軍ニ著司樂李  
斌榮修業成績ニ関スル件

外務省

以支那臨時代理公使 陸軍  
軍医学校ニ於テ 普通進友 李  
斌榮ニ係ル 修業成績ニ関  
スル件、前記 陸軍省ヨリ  
通商局長ニ送付 本報 轉  
送 李邦 内田大佐ニ送付

貴公の向う敬慕の表に  
敬具

（  
光緒二十六年六月廿日陸軍部  
外務省  
年 月 日  
）

外務省

3-2529

0214



受22052號

印字第二十八號

陸軍部

陸軍部

陸軍部

敬啟騎兵中尉沈維柱於本年七月由

貴國陸軍騎兵學校戰術班畢業茲准本國陸軍部

咨請將該中尉自本年十月起留充騎兵聯隊附六

箇月以資深造等因相應函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理為荷茲本代使對於

貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年七月二十四日

中華民國駐日代理公使莊璟珂

外務大臣子爵內田康哉閣下

大正九年八月 陸軍部第一課

中華民國駐日本公使館





文書課長

大正九年七月廿壹日接受

大正九年七月廿九日起草  
同 年 月 日 附

送第 三〇三 號

大正九年七月廿壹日發送

主任  
通商局長

主管通商局長

田中陸軍大臣

田中陸軍大臣宛

支那陸軍騎兵中尉沈維柱

支那陸軍騎兵中尉沈維柱

大正九年八月 壹日記録第二部接受 外務省

本年七月陸軍騎兵中尉沈維柱ヲ本年七月

支那陸軍騎兵中尉沈維柱ヲ本年十月

ヨリ右箇月騎兵中尉ニ協付トシテ見

察ガ及テ極本陸軍部ノ照會ニ

基キ本報在支那支那臨時代理公使

ヨリ中尉ノ出有之ヲ條下以テ記

上何分ノ段以テ甲不支及比色及照

合

第 20 門

第 20 門

第 20 門



第 第 第  
項 類 門 第  
號

文書課長  
大正九年七月廿壹日接覽

大正九年七月廿九日起草  
同日八月廿一日附

送第 三四 號

主管通商局長

大正九年七月廿壹日發送済  
主任  
通商局第三課長

文書課長  
大正九年七月廿一日

内田大五

田中陸軍大臣宛

友那陸軍騎兵中尉周孝培

在學進修  
中尉周孝培

大正九年八月 壹日記録第二部

外務省

客年十月より陸軍騎兵中尉周孝培は在學進修  
し友那陸軍騎兵中尉周孝培ヲシテ  
本年九月ヨリ同校馬術班ニ於テ修業  
尙政務殿如右陸軍部ノ照會ニ基キ  
公報在知知花友那臨時代理公使ヨリ  
中尉ノ在學進修ニ付右件公使ニ  
豫メ上結果傳ハシメ以テ示スル由ニ  
及ル旨也

電信課長

大臣

次官

政務

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

雲南宛  
大正九年八月五日  
五〇七三五〇  
内田外務大臣  
藤田八号  
藤田事務代理

七月十日附費電第九号ハ今八月二日到来  
直ニ唐總領事ヲ訪問問テ知レタル事  
左ハ当地公武學堂、卒業者中ヨリ新  
タニ二十名ヲ選抜シ其全部ヲ本學堂ニ入  
官學校(兵科)學校 復宜ニ任セ選拔スニ入  
学セシメテ日本語ハ全部ソノ素養長十等ニ

依リ本年ニ入学出来レバ九月初旬當紀去來  
入校迄修業ノ研究ヲ為サシムト、  
右ニ依リ該議ノ結果當方港十備ノ都合モ  
了リ成ルベク至急傳通知ヲ請フ唐ヨリ  
依頼スレリ

急

第四門

要回付

文書課長

大正九年八月九日 接受

大正九年

八月

九日

起草

同日附

送第三十七號

主管通商局長

關

大正九年八月九日 發

主任

通商課長

中野新博書記

陸軍部

陸軍次官

陸軍次官

雲南省諸武學堂卒業生

尚學

外務省

本件ニ付、八月三日附陸普亦二七八八號  
 ヲ以テ以中越ノ領土在雲南省  
 名領事館ニ訓令被付、其旨同  
 藤本領事館中代理ヲ以テ、  
 素電有之、其旨同、  
 以上ノ如ク、往後、其結果何カ、  
 以テ、其旨同、  
 本件在雲南省藤村領事館中代理

来歴 井田八郎 改文 塚原信行

外務省

3-2529

0221

附屬書類添附

天正九年八月拾壹日接受

雙通寫

第三課

所原印第三號

敬啟准本國陸軍部咨請將陸軍學生吳錫祺等二十名經理學生墨林翰等六名於本年十二月一日送入

及陸軍經理學校

陸軍部

貴國各地方聯隊充候補生俟期滿後入陸軍士官學校肄業等因相應開單函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希

見覆是荷茲本代使對於

貴大臣特表敬意謹具

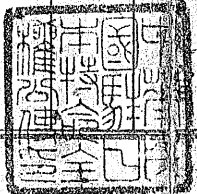
大正九年八月廿日記錄第一二部接受

中華民國九年八月九日

中華民國駐日本代使

莊璵珂

外務大臣子爵內田康哉閣下





計開

士官候補生二十名

吳錫祺 趙成樸 王 俊 張季英 景錄珊

盧 珖 章鴻春 郭宗汾 孫樹華 張 軫

劉鍾淇 陳炳坤 廖士翹 任青雲 梁鴻藻

齊 慤 林 圻 唐 星 李國良 曹秉森

經理候補生六名

墨林翰 曹樹章 呂登瀛 倪墨鄉 王式辰

李樹元

受23601號

庚申年八月廿三日

大正九年八月拾壹日接受

駐通商

第課



敬啟准本國陸軍部咨請將陸軍憲兵中尉魯  
 頌殷學瀛等二名於本年九月一日送入  
 貴國憲兵練習所將校班肄業等因相應函請  
 貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希  
 見覆是荷茲本代使對於  
 貴大臣特表敬意謹具

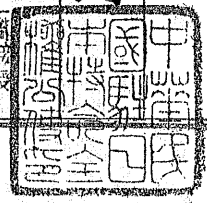
中華民國九年八月九日

中華民國駐日本代理公使莊孫珂

外務大臣子爵內田康哉閣下

大正九年八月拾六日記録第二番

中華民國駐日本公使館



附屬書類添附

大正九年八月廿四日接覽

陸軍省

陸軍部

陸軍省

陸軍省 陸軍部 第三三三三號

雲南省講武學堂卒業生留學子ニ

關スル件回答

大正九年八月十三日陸軍次官山梨半

外務次官植原正直殿

首題、件ニ関シ、八月九日通三送第三三七號

ヲ以テ照會、趣了承今般陸軍士官學校

校ハ制度改正ヲ行ヒ其ノ入學期ヲ毎

年十月一日ニ變更致候旨九月上旬雲南

出發入校迄語學研究ニ從事スル希望

ハ時日上語學ノ修習困難ナルヲ以テ本年

度ノ入學ハ許可難相成候條

可然回答方御取計相成度候也

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部



第 門

第 門

文書課長

大正九年八月十四日發

海軍省 文書課

大正九年八月十四日 起草

大正九年八月十四日發

送第 二六 號

主任 赤松 運務局長 署

主管通商局長 關

内田大五

支那陸軍大正 大正九年八月拾六日記録第二部接覽

支那陸軍將校 支那陸軍

支那陸軍

外務省

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

支那陸軍 漢兵中尉 魯領殿 奉用

24356

陸軍省

正九年八月拾七日接受

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省 陸軍第三三八七號

支那國將校學生成績ニ関スル件通牒  
大正九年八月廿七日 陸軍次官 山梨 半造

外務次官 植原 正道 殿

今般陸軍步兵學校 同騎兵學校 同野戰砲

兵射擊學校ニ於テ學業ヲ習得シタル左記

支那國將校ニ係ル修業成績別紙ノ通

ニ候條 支那國公使ノ通牒方取計相成

度候也

左記

陸軍步兵學校

陸軍

步兵中尉

王 靜 軒

同

楊 煥 彩

同

鹿 國 珍

陸軍騎兵學校

騎兵中尉

趙 鳴 泉

同

胡 靖 華

同

周 孝 培

同

沈 維 柱

陸軍野戰砲兵射擊學校

砲兵中尉

方 鼎 英

同

趙 以 寬



陸軍歩兵學校

王 靜 軒

一 射撃學及戰鬪射撃ノ計畫並實施ハ概ネ其要領ヲ了得セリ

二 機關銃ニ關スル教育法及實兵指揮ハ見學ニ依リ其一般ヲ了得シ將來之カ教官及指揮官トシテノ技能ヲ概ネ具備セルモノト認ム

三 戰術ハ機關銃ノ用法ニ關スル着眼並一般戰術上ノ能力大ニ向上セルモノト認ム

四 日本語ハ稍々進歩セルモ未タ十分ト認メ難シ要スルニ熱心研究ニ從事シ其成績概ネ良好ナルモノト認ム

揚 煥 彩

一 射撃學及戰鬪射撃ノ計畫並實施ハ概ネ其大要ヲ了得セリ

二 機關銃ニ關スル教育法及實兵指揮ハ見學ニ依リ其一般ヲ了得シ將來之カ教官及指揮官トシテノ技能ヲ概ネ具備セルモノト認ム

三 戰術ハ機關銃ノ用法ニ關スル着眼並一般戰術上ノ能力大ニ向上セルモノト認ム

四 日本語ハ稍々進歩セルモ未タ十分ト認メ難シ要スルニ熱心研究ニ從事シ其成績概ネ良好ナルモノト認ム

扈 國 珍

東京駒込誠心堂製

一 射撃學及戰闘射撃ノ計畫ハ概不其大要ヲ了得セリ  
 二 機關銃ニ關スル教育法及實兵指揮ハ見學ニ依リ其一般  
 ナ了得シ將來之カ教官及指揮官トシテノ技能ヲ概不具  
 備セルモノト認ム  
 三 戰術ハ機關銃ノ用法ニ關スル者眼並一般戰術上ノ能力  
 向上セルモノト認ム  
 四 日本語ハ未タ十分ト認ノ難シ  
 疾病ノ爲現地戰術及戰闘射撃ニ出場シ得サリシモ其  
 他ノ修學間熱心研究ニ從事シ其成績概不可ナルモノト  
 認ム

陸軍

東京海軍誠心堂製

甲種學生修業成績書

支那國留學生 胡 靖 華

一戰術

着眼可原則、理解及應用共ニ概不適當ナリ  
二軍隊教育法

戰術上、着眼及部隊運用、要領概不可ナリ  
教育指導上、着意亦概不適當ナリ

三馬術

姿勢概不可良、騎坐亦堅固ナルモ稍確實ヲ欠ク  
諸扶助、使用モ概不其要領ヲ會得セリ

大正九年七月 陸軍騎兵學校長 大島 又 彦



甲種學生修業成績書

支那國留學生 周 孝 培

一戰術

着眼概可原則ノ理解及應用共ニ稍可ナリ

二軍隊教育法

戰術上ノ着眼及部隊運用ノ要領概不可ナリ  
教育指導上ノ着意亦概シテ適當ナリ

三馬術

姿勢概不可ナルモ騎坐未タ堅確ヲ欲ク諸扶助  
ノ使用略其要領ヲ會得セリ

陸

大正九年七月 陸軍騎兵學校長 大島又



甲種學生修業成績書

支那國留學生 沈維柱

一 戰術

着眼可原則ノ理解及應用亦概不可ナリ

二 軍隊教育法

戰術上ノ着服及部隊運用ノ要領概不可ナリ

教育指導上ノ着意亦適當ナリ

三 馬術

姿勢概不可良、騎坐概不堅固ナルモ稍々確實ヲ改メ

諸扶助ノ使用モ略々其要領ヲ會得セリ

陸

大正九年七月

陸軍騎兵學校長 大島又





乙種二年學生修業成績書

支那國留學生 趙鳴皋

一馬術放範

原則ノ理解及應用概ニ良好ナリ

二馬學

諸科目ノ理解應用共ニ適切ニシテ馬管理ノ方法亦概ニ其要領ヲ會得セリ

三戰術

着眼可、原則ノ理解應用共ニ概ニ適當ナリ

四馬術

姿勢正良騎坐堅確ニシテ諸扶助ノ操作適切ナリ

陸軍

五通信

新馬調教ノ要領ヲ會得シ其伎倆優劣ナリ

概ニ騎兵通信術ニ敏ヲ會得セリ

大正九年七月 陸軍騎兵學校長 大島又彦



|            |  |                           |  |                               |  |                                      |
|------------|--|---------------------------|--|-------------------------------|--|--------------------------------------|
| 陸軍野戰砲兵射擊學校 |  |                           |  |                               |  |                                      |
| 陸軍砲兵中尉 方鼎英 |  |                           |  |                               |  |                                      |
| 科          | 野戰砲兵操典                                 | 戰                         | 射擊演習                                       | 術                             | 教  | 通                                    |
| 目          | 諸制式及諸法則ハ概テ其要領ヲ會得シ戰闘ニ概テ原則モ亦概テ理解シタルモノト認ム | 射擊學理ノ一般ヲ理解シ其概要ヲ會得シタルモノト認ム | 射擊諸制式及諸法則ハ概テ會得シ射擊ノ觀測段ハ一般ニテ簡單ナル中隊射擊指揮モ亦適當ナリ | 中隊ノ指揮運用及之カ教育法ノ要領ヲ概テ會得シタルモノト認ム | 電鈴式電話器材及震動式電話器材ノ構造機能及取扱ハ概テ會得シ簡單ナル通信班ノ用法モ概要理解シタルモノト認ム | 諸制式及諸法則ハ其要領ヲ會得シ戰闘ニ概テ原則モ亦概テ理解シタルモノト認ム |
| 備考         | 日本語ニ通曉シ研究心ニ富ミ成績優良ナリ                    |                           |  |                               |  |                                      |

|            |                                      |                    |   |                             |  |                                      |
|------------|--------------------------------------|--------------------|---|-----------------------------|--|--------------------------------------|
| 陸軍野戰砲兵射擊學校 |                                      |                    |   |                             |  |                                      |
| 陸軍砲兵中尉 趙以寬 |                                      |                    |   |                             |  |                                      |
| 科          | 野戰砲兵操典                               | 戰                  | 射擊演習                                    | 術                           | 教  | 通                                    |
| 目          | 諸制式及諸法則ハ其要領ヲ會得シ戰闘ニ概テ原則モ亦概テ理解シタルモノト認ム | 射擊學理ノ概要ヲ會得シタルモノト認ム | 射擊諸制式及諸法則ハ適用ヲ會得シ射擊ノ觀測確實ニシテ中隊ノ射擊指揮モ亦適當ナリ | 中隊ノ指揮運用及之カ教育法ノ要領ヲ會得シタルモノト認ム | 電鈴式電話器材及震動式電話器材ノ構造機能及取扱ハ概テ會得シ簡單ナル通信班ノ用法モ概要理解シタルモノト認ム | 諸制式及諸法則ハ其要領ヲ會得シ戰闘ニ概テ原則モ亦概テ理解シタルモノト認ム |
| 備考         | 日本語ヲ能クシ大局ニ着眼シ研究心ニ富ミ成績優秀ナリ            |                    |   |                             |  |                                      |

|                              |  |                               |   |                                   |                        |   |
|------------------------------|--|-------------------------------|---|-----------------------------------|------------------------|---|
| 備考                           | 科  |                               |   | 學                                 | 科                      | 陸軍野戰砲兵射擊學校                                    |
|                              | 通  | 教                             | 射   |                                   |                        |   |
| 備考<br>日本語ヲ能クシ細心研究ニ從事シ其成績優良ナリ | 信  | 練                             | 撃演習                                       | 野戰砲兵射擊教範                          | 野戰砲兵操典                 | 陸軍砲兵中尉 劉士毅                                    |
|                              | 電鈴式電話器械及震動式電話器械構造機能取扱ノ概要ヲ會得シ簡單ナル通信班ノ用法モ亦概ネテ解シタルモノト認ム | 中隊ノ指揮運用及之カ教育法ノ一概要領ヲ會得シタルモノト認ム | 射撃ノ諸制式及諸法則ノ適用ヲ概ネテ解シ簡單ナル中隊射撃指揮及射撃ノ觀測概シテ可ナリ | 一般戰術特ニ砲兵ノ戰術法ニ關スル原則ハ概ネテ之ヲ解シタルモノト認ム | 射撃學理ノ大要ハ概ネテ之ヲ解シタルモノト認ム | 諸制式及諸法則ノ研究熱心ニシテ概ネテ其要領ヲ了解シ戰術ノ原則モ亦概ネテ會得シタルモノト認ム |

|  |                         |                              |                                |                      |                 |                                      |
|--|-------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------------------|-----------------|--------------------------------------|
| 備考   | 科                       |                              |                                | 學                    | 科               | 陸軍野戰砲兵射擊學校                           |
|  | 通                       | 教                            | 射                              |                      |                 |                                      |
| 備考<br>相當ノ研究心旺盛ナルモ日本語ノ了解ハ充分ナルヲ以テ其成績ハ良好ト謂ヒ難シ | 信                       | 練                            | 撃演習                            | 野戰砲兵射擊教範             | 野戰砲兵操典          | 陸軍砲兵中尉 金鏡清                           |
|  | 電話器械構造機能及取扱ノ概要領ヲ了解充分ナラス | 中隊ノ指揮運用及之カ教育ノ要領ハ稍々會得シタルモノト認ム | 射撃ノ諸制式及諸法則ノ了解充分ナラス射撃ノ觀測ハ概シテ可ナリ | 一般戰術ノ概要ハ之ヲ了解シタルモノト認ム | 射撃學理ノ一報ノ了解充分ナラス | 諸制式及諸法則ノ了解充分ナラス戰術ノ一報ノ原則モ充分會得セザルモノト認ム |



|  |                         |                             |                                |                     |                            |                                    |
|--|-------------------------|-----------------------------|--------------------------------|---------------------|----------------------------|------------------------------------|
| 備考<br>相當研究心旺盛ナルモ日本語ヲ了解不充ナルヲ以テ其成績ハ良好ト謂ヒ難シ | 科                       | 術                           | 科                              | 學                   | 科<br>目<br>成<br>績           | 陸軍野戰砲兵射擊學校<br>陸軍砲兵中尉 陣 自強          |
|  | 通<br>信                  | 放<br>練                      | 射<br>擊<br>演<br>習               | 戰<br>術              |                            |                                    |
|  | 電話器ヲ構造機能及取扱ハ般要領ヲ了解充分ナラス | 中隊ノ指揮運用及之カ教育ノ要領ハ稍々會得シタルモト認ム | 射擊ノ諸制式及諸法則ヲ了解充分ナラス射彈ノ觀測ハ概シテ可ナリ | 一般戰術ノ概要ハ之ヲ了解シタルモト認ム | 野戰砲兵射擊教範<br>射擊學理一般ノ了解充分ナラス | 諸制式及諸法則ヲ了解充分ナラス戰術一般ノ原則モ充分會得セザルモト認ム |

文書課長

大正九年八月六日 附

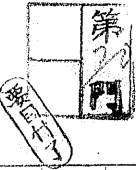
送第 號

主管通商局長

主任 通商監督

電信第 7516 號  
9年8月9日 附

電信案



在雲南

内田大五

藤村領事領事代理

雲南省省立学校長

校長

外務省

沖一 別

貴電亦四八那、云々陸軍省、照会

云々陸軍士官学校、制改正ヲ行

ヒ其ノ入学期ヲ毎年十月一日ニ変更シ

タルニ付九月上旬雲南出發ノ入校迄ノ

短期留學ノ修習困難ナルニ付、本

年初ノ入學ハ許可シ難キ旨回答

アリ

Handwritten note on the right margin: 雲南省省立学校長 (藤村)

第一項 第一門

文書課長

大正九年八月拾九日接受

校正

大正九年

八月十八日起草

別紙

同一年

八月二十日附

大正九年八月廿日 發送済

送第 三五五號

主任

通商局課長

主管通商局長

支

内田大五

田中陸軍大五郎

支那陸軍學生本部

為学ニ関スル件

大正九年八月廿日 記録第一二部接受

外務省

支那陸軍學生吳錫祺等十九名及  
 經理學生墨林翰等五名ヲシテ本年  
 十二月一日(日)支那各地方所屬ニ隔附ト  
 シテ見聞セルノ時期後前者ハ陸軍士  
 官養成ニ後者ハ陸軍經理學校ニ入学  
 為政方針トシ陸軍部ニ迎合ニ依リ  
 今般在京莊支那臨時代理公使等  
 中越ノ支那前立ヲ降古許否ニ関シ

不致以陸續、上結果何分ノ我ハ  
不致以陸續、上結果何分ノ我ハ

別紙在東京支那公使館未行八月九日

附外原字第三册 附原書ノ字

（一）陸軍ノ一

（別紙未行中）及陸軍經理官ノ一

字ノ電報トシテ、其ノ結果、在東京支那

陸軍省生學附書記長未行ノ上記

外務省

（ニ）ルモノナリ

文書課長 大正九年八月廿一日 陸軍省 文書課 白川 謹啓

大正九年八月十八日 起草 同日附

送第 二六 號

大正九年八月廿一日 陸軍省 主任 瀨島 謹啓

主管通商局長

在知知 内田大五

莊友那原時代 代理公使記

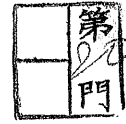
支那陸軍將校學生成績

云云

外務省

以書翰及啓上 陸軍省兵部  
校、日騎兵多校、日野戰砲兵射撃多校  
於了學業ヲ習得シタル貴官左記將  
校ニ係ル修業成績別表ノ通令被  
陸軍省了通曉有元ヲ修中者  
智志高才大正ニ於テ重ク貴下ニ  
仰テ敬意ヲ表シテ致ス

記



陸軍省





大正九年八月廿五日 接受

管政務局

第一課

郵

左記即請 為要也  
此致 一 行

秘

被授10881號

第 門

次官同文 八月二十四日

電 報

八月二十日午後二時五分發  
八月二十日午後二時五分著

次長 宛 在 台灣軍參謀長

台電第一八八號

陳炯明ヨリ派遣セル軍医見習生黄啓崇

ハ九月一日ヨリ向フ六ヶ月台北衛戍病院ニテ教

育スルコトニ決定セリ右報告ス

陸 軍

3-2529

0243

陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部  
三五七七號

受25629號

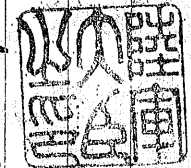
大正九年九月壹日 接受  
駐通薦  
筆課  
陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部

支那陸軍憲兵中尉魯頌外一名憲兵練習所  
修業ノ件回答

大正九年八月廿日 陸軍大臣 田中義一  
外務大臣 子爵 内田康哉 殿

本件之関シ八月廿日通三第 三三六號ヲ以テ照會ノ趣  
來意ノ通修學セシムヘク應諾上ノ條件ハ大正六年

二月陸軍第四八五號ノ通ト承知相成度又學生ハ  
九月百八所セシム様致度以旨可然支那代理公使  
ハ回示相成度候也



陸軍省

受25630號

陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部  
三五七五號

大正九年九月壹日 接受  
駐通薦  
筆課  
陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部  
陸軍省陸軍部

支那國陸軍將校修學ノ件回答

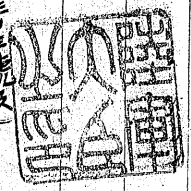
大正九年八月三十日 陸軍大臣 田中義一  
外務大臣 子爵 内田康哉 殿

首題ノ件之関シ通三第 三三三號同第 二七五號同第 三〇四號  
ヲ以テ照會ノ趣胡周西中尉ハ九月一日ヨリ一ヶ年陸軍騎兵學

校馬術科ヲ、全陳西中尉ハ十月一日ヨリ四月陸軍野戰砲兵射  
擊學校乙種學生ノ課程ヲ、沈中尉ハ十月一日ヨリ六月騎兵

第一聯隊ニ在職醫ハ九月一日ヨリ一ヶ年陸軍獸醫學校ニ夫  
附屬修學セシムヘク候條同日午前八時當該部隊ニ到着セシ

大ラルル様在本邦支那國臨時代理公使ハ可然御回示相成  
度候也



陸軍省

3-2529

0244

95862

大正九年九月參日接受

庚申年八月二十五日

陸軍省

陸軍省

敬啟騎兵中尉趙鳴皋於本年七月由

貴國陸軍騎兵學校馬術班二年級畢業茲准本

國陸軍部咨請將該中尉自本年十月起留充騎

兵聯隊附六箇月以資深造等因相應函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理為荷茲本代使對

於

貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年八月二十七日

中華民國駐日本代理公使莊璟珂

中華民國公使館

外務大臣子爵內田康哉閣下



急

第20

文書課長

大正九年九月三日

大正九年九月三日

同 年 月 日 附

送第 一 號

主任

大正九年九月三日

主管

通商局長

閣下

大臣

在本邦 支那臨時代理公使宛

支那陸軍憲兵中尉魯頌升一君

憲兵練習所修業中 既之件

外務省

以書翰致陸上候陳者貴國陸軍憲兵中尉魯頌升以外  
 陸軍我憲兵練習所修業希望八月九日貴國領事  
 照會一紙敬承致候右陸軍省へ及照會會置候處今般  
 同有之右將校へ御來意通し修業中ハリ應諾上ノ條件  
 大正二年二月廿四日政送第二院及通知置候通有  
 之當九月一日所可相成探照會方有之候ニ付然様御  
 承知相成度此致回答旁大臣貴下ニ向テ敬意ヲ  
 表シ候 敬具

手紙の返事

浄書課長

文書課長 大正九年九月六日 謹呈

大正九年九月四日 附

送第 一八 號

主管 通商局長 了

大正九年九月七日 主任

淨原 校正 淨原

在在邦情の爲る事

第 20 門

在在邦 支那臨時代理公使宛 内田大臣

支那國陸軍經理部將校候補 生六名本邦留學ニ関スル件

外務省

以高翰 啓上 候 陳者 貴國陸軍 經理部 將校 候補 生六名 本邦留學

ニ関シ 本年八月九日 附 貴翰ヲ以テ 申

越ノ 趣 敬承 候 右ニ 當 時 未 陸

軍省へ 及 移 牒 置 候 處 今 般 費

横ノ 同 有 同 費 依 依 貴 國 陸 軍 學

生 帝 國 陸 軍 下 部 教 育 件 允 許

相 成 候 糸 末 九 月 十 五 日 午 前 九 時

片 控 補 給 生 六 名 成

經理部 校長 入 部 方

在 中 貴 國 陸 軍 學



陸軍經理号後へ出頭セシムル様致度  
此段様答房本大臣  
ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ矣  
敬具

外務省



文書課長

大正九年九月六日

第 55 号

浄書之校正原

大正九年九月四日 起草  
同日 附

通達第三二四號

大正九年九月七日 發達

主任

主管

通達局長

第三二四號

内田大臣

田中陸軍大臣宛

支那陸軍騎兵中尉趙鳴皋

騎兵聯隊見事周知件

外務省

本年七月<sup>我</sup>陸軍騎兵學校卒業セル

支那陸軍騎兵中尉趙鳴皋ヲシテ

本年十月より六月騎兵聯隊ニ隊

附トシテ見事為致度趣本陸軍

部ノ照會ニ基キ今般在本邦駐支

那臨時代理公使ヲ申越シ次第有之ハ

条可知申越候上何分義申示

相成致此段又照會也

第 20 門

要目付了

文書課長

大正九年九月拾五日 接受

大正九年九月四日 起草

同 年 八 月 廿 六 日 附

送第 三 一 號

主管 通商局長

大臣

在 本 邦  
支那臨時代理公使宛

支那陸軍騎兵中尉月孝培外

五名、修習子許可ニ関スル件

支那新博覧會場建築費

浄書 報本 校正 済

主任 大正九年九月十日

以書翰致啓上候陳者貴國陸軍騎兵中尉周孝  
 培氏外五名我陸軍ニ於テ夫々修學希望、昔六  
 月當付其他三通ノ以貴翰御照會、趣夜  
 致承候方ハ陸軍省へ及照會置候處今般同  
 者ヨリ大將校ハ新來高ノ通リ修學ナレムヘキ旨ニシ  
 胡周雨中尉ハ九月一日ヨリ一ヶ年陸軍騎兵學校馬  
 術科ヲ、金陳雨中尉ハ四月ヨリ四月陸軍野戰  
 砲兵射撃學校ニ種學生ノ課程ヲ、沈中尉ハ十月日

三月廿月騎兵第一聯隊ニ崔獸醫ニ九月一日ニ  
陸軍獸醫學校ニ夫ニ附屬修學ニレシム標申<sup>有長</sup>候  
ニ付右標御承知相成度此段回答膏本大臣ハ  
品ニ重ニ貴下ニ向ニ敬意ヲ表シ候 敬具

外務省

電信課長

大臣

次官

政務

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

要書 濟

平島印信局宛電

陸軍部

雲南砲  
大正九年九月  
十四日右六、二〇  
十七日前九、五〇

内田外務大臣 藤村事務代理

第七〇號

貴電第一一號、閣下右唐継堯ニ申傳へ置キタ  
ル所昨日唐ニ面會ノ節唐ハ本年友ニ入學ノ出  
来ヤルハ巴ムヲ得ヤルニ付明年(大正十年)  
十月入學期ニハ是那二十名(内十名ハ歩兵十  
名ハ他ノ各兵科)入學セシメタク入學準備ノ

夕メ至急日本語ノ稽古ヲ始メ夕キニ付豫メ明  
年友入學ノ由許可ヲ得置キ夕キニ旨申出タリ

3-2529

0255



天正九年九月拾七日 獲

警務局

第二課 兼

九月十七日

九月十七日 午前十一時五分 午後四時十五分 著

電報

宛在

東 少 將

第11861號

第20門

文部外事務

本年度陸軍大學校に入學したる學生ノ件ニ付當局者ノ由  
テ之ヲ詢シテ之ニ以テ之ヲ趣旨ハ決定シタルモ財政其他ノ關係

要旨

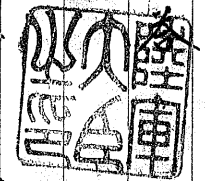
ハカク其願振リモ未タ定メ居ル模様ナリ尤モ參謀總  
長ト通ジテ其意ヲ以テ居リ次長モ其數日來天津ニテ  
主任局長崔承燾モ亦 本夕ニ至リテ六歸京ニサレ  
ニヨリ確定セル所ハ崔局長及次長ニ面談シ上報  
シテ之ヲ取敢ニス。

陸軍  
現次長蔣雁行ノ呼聲漸ク高ク次長ノ後益  
ハ 六字不明 日本留學生頗ク運動中ナリト

陸軍部 陸軍部

大正九年九月廿日 接受  
陸軍省 第三八五七號

支那陸軍騎兵中尉趙鳴皋隊附、件、田陸軍  
大正九年九月十八日 陸軍大臣男爵田中義一



外務大臣伯爵内田康哉 致

首題、件、関シ九月七日附通三送第三五四號

ヲ以テ照會、趣、了承、右、本年十月一日ヨリ六箇

月間騎兵第二十六聯隊ニ隊附セシムル、應、諾、上

ノ條件ハ大正六年二月陸普第四八九號ノ通ト承知

相成度又趙中尉ヲシテ入隊日以前第十五師團司

令部ニ出頭シ師團長ノ區處ヲ受ケシメラレ度候也

陸軍

解回シ

27784



文書課長

大正九年九月廿日 接

支那即席

淨書 校正 淨原

大正九年九月二十日起草  
同、年九月二十日附

政一送第 三二號

大正九年九月廿日 發

政務局

第一課

在本邦

莊支那代理公使

内田大臣

(支那陸軍騎兵中尉趙鳴皋隊附ノ件)

以書翰致啓上候陳者貴國陸軍騎兵中尉趙鳴皋氏騎兵聯隊附希望ノ旨八月  
二十七日附外庚字第三五號貴翰ヲ以テ御甲越ノ趣致了承候右ハ陸軍省へ  
及照會置候處今般同氏ヲ騎兵第二十六聯隊ニ本年十月一日ヨリ六箇月間

外務省

要務

第20門

要目付

隊附セシムヘク尤モ右ニ就テハ大正六年二月二十四日附政送第二號拙信  
添附ノ條件ニ依ルヘキコトト致度旨並趙中尉ハ入隊日以前ニ第十五師團  
司令部ニ出頭シ同部團長ノ區處ヲ受ケラレ度旨回答有之候間右ノ次第通  
達方可然御取計相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表  
シ候 敬具

外務省

文書課長  大正九年九月廿日 接

大正九年九月十八日起草  
同 年九月廿日附  
政一送第 三五號

大正九年九月廿日 發

送付

政務局長

第一課

山梨 陸軍 次官

壇原 次官

雲南省講武學堂卒業生留學ニ關スル件

本件ニ關シ客月十三日附陸普第三三六一號御回報ノ次第八當時在雲南  
村事務代理へ及電達置候處其後唐繼堯ヨリ藤村事務代理ニ對シ本年度ニ  
入學不可能ナルニ於テハ致方無之モ明年(大正十年)十月ノ入學期ニハ  
是非二十名(内歩兵科十名他十名ハ各兵科)入學爲致度就テハ入學準備

要再回

第80門

外務省

ノ爲至急日本語ヲ修得セシムル必要モ有之ニ付旁々明年度入學ノ許否豫メ  
承知シ度旨申出アリタル趣ニ有之候ニ付テハ成ルヘク好意的考量ヲ加ヘ  
ラレ結果御回示相成度此段及照會候也

之

外務省

附屬書類添附

正九年七月八日 接

陸軍省 陸軍部 第四九一八號

第一課

陸軍省 陸軍部 第四九一八號

支那國陸軍將校候補生教育ノ件 通牒  
陸軍大臣男爵田中義一

大正九年十月六日 外務大臣伯爵内田康哉 殿

八月二十日 通牒第三三五號ヲ以テ 御申敷相

成候支那國陸軍將校候補生 留學ニ関スル件

中九月二日 陸軍部第三五九五號 通牒 追書ニ依ル

將校候補生 吳錫祺以下二十名ニ對シ 今般帝國陸

軍ニ於テ 教育方允許相成候條 未ニ十二月一日午前

九時別紙ノ通各指定ノ諸隊ニ出頭セシムル 様 支

那國臨時代理公使ニ 御回示相成度候也

陸軍

3-2529

0260

大正四年清支那國陸軍將校候補生配賦名簿

入隊隊號

步兵第四十七聯隊

步兵第十四聯隊

騎兵第二十二聯隊

野砲兵第六聯隊

野砲兵第十聯隊

野砲兵第二十三聯隊

野砲兵第十二聯隊

工兵第六大隊

輜重兵第十七大隊

姓

吳 劉 孫 張 梁 曹 章 趙 盧 齊

名

錫 鐘 樹 鴻 秉 鴻 成

任 陳 唐 張 景 廖 郭 王 李 林

青 炳 季 錄 士 宗 國

棋 洪 華 軫 藻 森 春 樸 玳 整

雲 坤 星 英 珊 翹 汾 俊 良 炳

第 20 門

支那臨時代理公使

文書課長 松原 大正九年十月十日 接獲

大正九年十一月九日起草

大正九年十月十日附

亞一送第四一號

別紙

大正九年十月十日 發送濟

主任 第一課

主管 亞細亞局長 代電

内田 大臣

在本邦

王 支那臨時代理公使

(支那國陸軍士官候補生本邦留學ニ關スル件)

以書翰致啓上候陳者八月九日附外庚字第三二號貴翰ヲ以テ御申越相成候

貴國陸軍士官候補生及經理部將校候補生留學ニ關シテハ曩ニ九月七日附

支那情報部 代電

海軍校正原 淨

事務

通三送第二八號ヲ以テ經理部將校候補生六名ニ對シ陸軍經理學校入學充  
許ノ趣及回答置候處今般陸軍省ヨリ士官候補生二十名へ我陸軍ニ於テ教  
育方允許相成候條來ル十二月一日午前九時別紙ノ通各指定ノ諸隊へ各本  
人ヲ出頭セシメラレ度旨回答有之候間右ノ次第通達方可然御取計相成度  
此段拜答旁々本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

十一月六日附陸軍省兼編陸軍省身宛ノ付  
附書支那國陸軍省林侯補生既開在符安原附ノ

電信課長

大臣

次官

陸

陸軍大臣

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

第20門

陸軍大臣 陸軍省

陸軍省

七 暗

陸軍省

内田外務大臣

陸軍省 陸軍大臣 陸軍省

方口九号

陸軍省方口九号 陸軍省より官費生(私費生ハ  
中止セリ)トシテ明年十月士官學校ニ入學  
セシム可キ者ニテ名ハ既ニ其選抜ヲ終リ日  
本諸其他ノ稅者古ヲ始メ明年四月日  
ニ赴キ更ニ日本語ヲ傳習スルコトヲ決シ居  
リ就テ右三名ノ入學ハ是非許可衛決  
定ノ上至急御回示ヲ請フ

記



2017

陸 33532 號

大正九年 六月拾六日 接受

陸軍部 第一課

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 第五〇七六號

雲南 陸軍部 軍隊 見學 中止 三 関スル 件

大正九年 十月十五日 陸軍次官 山梨 羊造

外務次官 植 正 直 殿

昨 年 十 月 二 十 三 日 陸 軍 部 第 四 五 四 二 號 通 牒

、 通 第 一 師 團 管 下 軍 隊 ヲ 見 學 中 ナリシ

支 那 國 雲 南 省 陸 軍 部 校 八 本 月 二 十 日 期

限 満 了 一 付 見 學 中 止 ヲ 被 命 候 條 及 通

牒 候 也

陸 軍

3-2529

0265



文書課長

松原

大正九年七月拾六日接受

87

海書校正

原

大正九年十一月十五日起草  
大正九年七月十六日附

大正九年七月十六日發送済

送一送第四号

主任第一課

要旨付

主管 亞細亞局長

7

印

印

植原次官

山梨陸軍次官

雲南省講武學堂卒業生留學ニ關スル件

要再回



本件ニ關シ九月二十日附政一送第三七五號ヲ以テ及御照會置候次第有之

事務

夕  
春  
會  
候  
處  
今  
般  
在  
雲  
南  
藤  
村  
事  
務  
代  
理  
ヨ  
リ  
ノ  
來  
電  
ニ  
依  
レ  
ハ  
右  
等  
學  
生  
二  
十  
名  
ニ  
對  
シ  
官  
費  
生  
ト  
シ  
テ  
選  
拔  
ヲ  
終  
リ  
既  
ニ  
日  
本  
語  
ノ  
稽  
古  
ヲ  
開  
始  
シ  
明  
年  
四  
月  
渡  
日  
ノ  
上  
更  
ニ  
日  
本  
語  
ヲ  
習  
得  
セ  
シ  
ム  
ル  
事  
ニ  
決  
定  
シ  
タ  
ル  
趣  
ニ  
有  
之  
旁  
此  
際  
明  
年  
度  
入  
學  
ノ  
許  
否  
確  
答  
ノ  
必  
要  
●  
有  
之  
候  
ニ  
就  
テ  
ハ  
何  
分  
ノ  
儀  
至  
急  
御  
回  
示  
相  
成  
度  
此  
段  
重  
テ  
及  
照  
會  
候  
也

號34381號

大正九年十二月廿四日發

管編寫

第一課

印庚字第七號

敬啓准本國陸軍部咨請將陸軍砲兵中尉李瑜  
於本年十一月陸軍砲工學校高等科畢業後自  
明年二月起至七月止留充砲兵聯隊附六箇月  
以資學習等因相應函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希

見復為荷茲本使對於

貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年十一月二十三日

中華民國特命全權公使

胡惟德

中華民國駐日

陸軍部

日本外務大臣伯爵內田康哉閣下

大正九年七月廿四日發

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部第八號

受34382號

敬啟准

貴大臣函開准陸軍省函稱貴國陸軍學生二十名於十二月一日入各地方聯隊充士官候補生等因並附送清單一紙前來相應函達貴公使查照轉飭遵照等因除轉飭各該生屆期入隊外相應函復貴大臣轉牒陸軍省查照是荷茲本使對於貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年十一月二十一日

中華民國特命全權公使

胡惟德

中華民國駐日

胡惟德

日本外務大臣伯爵内田康哉閣下

第 門

文書課長松原

大正九年七月廿五日接受

淨善校正原

大正九年十一月廿五日起草

大正九年十一月一日附

別紙

大正九年七月廿五日發送濟

亞一送第 1275 號

主任

第一課 新

主管 亞細亞局長

松原

内田大臣

田中陸軍大臣

支那陸軍砲兵中尉李瑜砲兵聯隊見學ニ關スル件

本年十一月我陸軍砲工學校高等科ヲ卒業セル支那陸軍砲兵中尉李瑜ヲシ

テ明年二月ヨリ七月迄六ヶ月砲兵聯隊ニ隊附トシテ實習爲致度旨本國陸

送附

送付了

事務



軍部ノ照會ニ基キ今般在本邦胡支那公使ヨリ申越ノ次第有之候ニ付御詮  
議ノ上何分ノ儀御回示相成度此段及照會候也

3-2529

0271

大正九年十二月卅日 接 管 第一課

功 原 字 第 十 號

受34980號

敬啟准本國陸軍部咨請將陸軍砲兵中尉沈崇基工  
兵中尉藍騰蛟張應儒等三名於本年十一月陸軍砲  
工學校普通科畢業後即於十二月繼續升入該校高  
等科肄業等因相應函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希

見復是荷茲本使對於

貴大臣持表敬意謹具

中華民國九年十一月二十九日

中華民國特命全權公使

胡惟德

中華民國駐日公使

日本外務大臣伯爵內田康哉閣下



要務

要務

文書課長

大正九年正月一日 接

大正九年十一月三十日起草

大正九年十一月三十日附

送第一八二號

大正九年正月一日 發送済

主任

第一課

印

主管 亞細亞局長

7

内田大臣

田中陸軍大臣

支那陸軍砲兵中尉沈崇基他二名砲工學校高等科

入學ニ關スル件

支那陸軍砲兵中尉沈崇基工兵中尉藍騰蛟張應儒三名八本月陸軍砲工學校

下務官

校印  
原

普通科卒業後尙ホ來ル十二月ヨリ引續キ同校高等科修業爲致度旨本國陸  
軍部ノ照會ニ基キ今般在本邦胡支那公使ヨリ申越ノ次第有之候ニ付御詮  
議ノ上何分ノ儀御回示相成度此段及照會候也

大正九年三月拾壹日接獲

陸軍省

第一課

陸軍省 陸軍部 陸軍省



陸軍省 陸軍部 陸軍省

雲南省講武學堂卒業生留學ニ関スル件 日答

大正九年三月十日 陸軍次官山梨半造

外務次官埴原正直殿

首題ノ件ニ関シ九月二十日政一送第三七五號

及十一月十六日亞一送第四六六號ヲ以テ照會ノ

趣了案右ニ聽講許可相成候條支那側

ニ對シ可然回答相成度候也

第10門

陸軍省

陸軍

20

junman

平

在支那方面之生(陸軍)

亞細亞局長

亞細亞第二課

田部

内田大匠

左雲南

工藤村事務代理

第六課

貴書牙一〇九号ノニ関シ陸軍

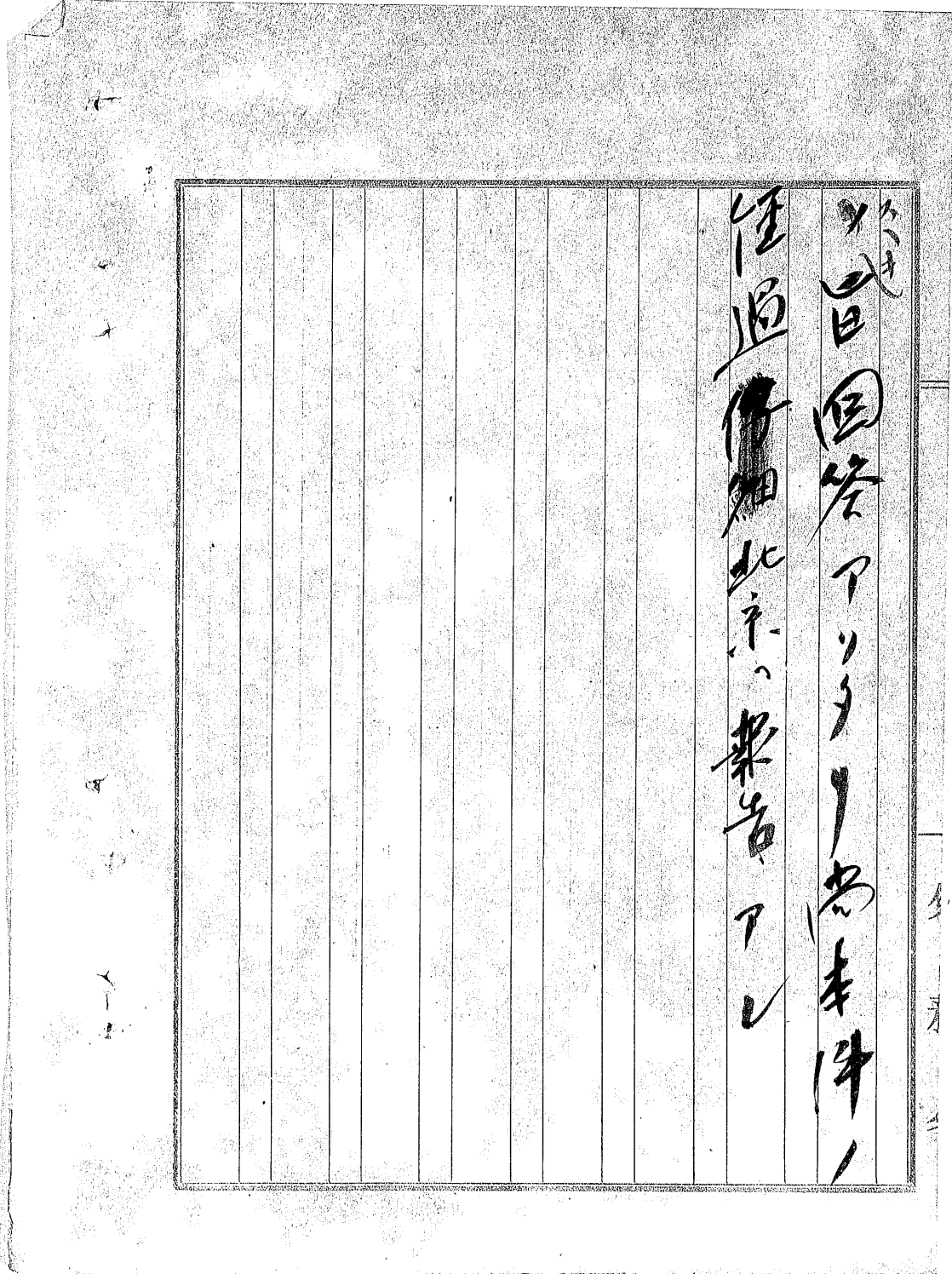
省、照會セシ處聽講許可

電送第 10590 號

大正9年2月7日 時0分

3-2529

0276



3-2529

0277

陸軍省 陸軍部 第五号之九

陸軍省 陸軍部 第五号之九

第一課

支那陸軍砲兵中尉李瑜砲兵隊々附一件 陸軍大臣男爵田中義一

外務大臣伯爵内田康哉

首題、件二関シ十一月二十五日第一送第四七五號ヲ以テ照會、趣了承、右、大正十年二月一日ヨリ六箇月間野砲兵第十大聯隊ニ隊附セシム(ク)修條同日以前第一師團司令部ニ出頭シ師團長、正處ヲ受ケシノリ度候也

陸軍

大正九年三月廿二日接受

陸軍省 陸軍部 第五号之九

第一課

支那陸軍砲兵中尉沈崇基外二名 砲工學校 高等科入學一件 回春

大正九年十二月二十一日

陸軍大臣男爵田中義一

外務大臣伯爵内田康哉

首題、件二関シ十一月三十日第一送第四八二號ヲ以テ照會、通修業セシム(ク)候條此旨可然支那國公使、御回示相以度候也

陸軍



史部初選部員等 陸軍部

大正九年十二月三日接 第一課

機密公第二九號

大正九年十二月二日

在雲南日本領事館事務代理

外務書記生藤村俊房

外務大臣泊壽内田康哉殿

雲南省學生、士友學校入學に

關スル件

雲南政府ハ當地講武學校卒業者ヲシテ更ニ軍事教育ヲ積ミ將來ニ爲ノ將校ヲラシムル目的ヲ以テ学力不採ノ優秀ナルモノヲ選抜シ之ヲ日本士友學校ニ入學セシメタキ意向ヲ有

在外公館

シ其許可方申出居ル次第ハ既ニ御承知ニ通ニ有之モ要當地當局者ハ其必然許可ヲ得ベキヲ確信シ往電第百九號片報ノ通り其試験ヲ行ヒ前線人員ヲ擁護シ目下入學ニ必要ナル日本語及數學等ヲ授ケ更ニ大正十年四月ヨリ士友學校入學正本和ヲ於テ日本語ヲ研究スル協定ニ依リ該學生等ハ其留學ヲ非常ニ名譽トシテ熱心ニ授業ヲ受ケツアル茲ニ至リモ支那ノ統一ヲ熱望スル帝國政府力北方政府ニ難ヲ構ヘ其統一ヲ阻害シ居ル虞継ぎノ勢力ヲルベキ是等軍人ノ養成ニ助力スルコトハ一應考慮ヲ要スハキ次第トハ思料致知共元來唐継ぎノ勢力ハ容易

第20門

機密16450號



二他ノ壓迫ヲ蒙ラサル地理ノ天險ヲ擁スル其  
 軍隊ノ素質カ優良ナルニ在リ他ノ援助ニ有  
 無ニ格別ノ影響ヲ與フルモノニ非ス目下ノ如ク  
 支那政情ノ變転極リナク北方政府カ吾勢  
 カヲ雲貴ニ傾倒シ能ハサルニ於テハ唐繼堯ノ  
 地位ニ時ニ伸縮ニ免レサルモ之ヲ傾倒スルコト  
 ハ到底困難ナルモノアレハ軍兵ノ供給等トハ大  
 ニ其性質ヲ異ニスル本件學生ノ養成ノ如キ  
 出米帰ル限リ便宜ヲ借シ親日傾向ヲ著シ  
 キ雲南ヲシテ益々帝國トノ關係ヲ密接ニ致  
 度多ク付事情御諒察ノ上至急右内詳可  
 相成多様篤ト陸軍當局ニ交渉方由取計  
 在案ニ様致度此後中進英教具

在外公館

近テ右入學擧拔者二十名、内地講武學  
 堂卒業者ハ步兵科十名砲兵科四名工  
 騎兵科各二名各縣兵科又黃毓能一名  
 ハ謀武學堂、卒業者ニ非サルモ日本語既ニ  
 一層諳解ノ便有ラズシテ學業その他、其亦  
 著シキモノアルニ依リ本人モ他ト同様  
 入學設計方申出所為ニ付考海中係員

日本士官學校入學選拔生人名表

| 姓名  | 辨  | 年齡 | 貫籍   | 履歷                       |
|-----|----|----|------|--------------------------|
| 王懷亮 | 思遠 | 二〇 | 雲南大理 | 中學卒業、雲南講武學校第十三期<br>步兵科卒業 |
| 徐維藩 | 屏侯 | 二五 | 雲南東川 | 上                        |
| 高銓  | 庚明 | 二二 | 雲南陸良 | 中學卒業、雲南講武學校第十三期<br>砲科卒業  |
| 趙之俊 | 傑三 | 二三 | 雲南路南 | 中學卒業、雲南講武學校第十三期<br>步兵科卒業 |
| 李曠  | 秉釗 | 二二 | 廣東梅縣 | 上                        |
| 陳其璋 | 獻南 | 二五 | 雲南羅平 | 砲科卒業                     |
| 楊克岫 | 亞山 | 二一 | 雲南海源 | 上                        |
| 張維良 | 敬韓 | 二一 | 雲南文山 | 步兵科卒業                    |
| 牛光漢 | 雲卿 | 二〇 | 雲南東川 | 上                        |
| 梁誥  | 子榮 | 二〇 | 雲南蒙化 | 工科卒業                     |
| 魯道源 | 子泉 | 二一 | 雲南順寧 | 步兵科卒業                    |
| 王成福 | 培枝 | 一九 | 廣東茂縣 | 騎科卒業                     |
| 楊遇鈔 | 用之 | 二三 | 雲南騰衝 | 砲科卒業                     |
| 李偉章 | 光伯 | 二二 | 上    | 騎科卒業                     |
| 趙之鼎 | 鏄九 | 二一 | 雲南雲縣 | 步兵科卒業                    |
| 楊勉  | 健甫 | 二〇 | 雲南劍川 | 上                        |
| 陳紹文 | 啟周 | 一九 | 雲南通海 | 上                        |
| 蘇昂銓 | 叔衡 | 一九 | 雲南昆明 | 工科卒業                     |
| 和中立 | 柱臣 | 二三 | 雲南祿豐 | 步兵科卒業                    |
| 黃毓能 | 子俊 | 二二 | 雲南會澤 | 日本東京高等學校肄業               |

備考一、步兵科十一名、騎兵科二名、砲兵科四名、  
工兵科二名

一、黃毓能ヲ除ク外雲南講武學校見習士官ナリ

在外公館



文書課長

大正九年三月廿三日接覽

大正九年三月廿三日附

大正九年三月廿三日發送

送第 五 號

主任

第一號

年 月

主管 亞細亞局長 了

内田大臣

在木部

胡支那公使

以書報致 陸軍省 貴國

陸軍砲兵中尉 沈崇基 兵中尉

監 張德德 兵中尉

外務省

砲工學校高等科修業希望、旨定日

同二十九日外辰字第十號貴館より

街申越、趣致了承致言、陸軍省へ

及照會、四道責、修業修可也 返、ハキ目回

答有之、空閑在、次身、連送方

可然御取斗相成度、比段回答、才大臣へ

茲三重、閣下ニ向テ、致意ヲ表シテ、敬具



Handwritten notes in the right margin.



文書課長

松原

大正九年五月廿三日接獲

36

海軍省 文書課 校正 済

大正 年 月 日 起草

同 九 年 五 月 三 日 附

大正九年五月廿三日發送済

送第 五 二 號

主任

第一課

年月

主筆 細野局長

谷田大臣

直本邦 胡支那可須

支那陸軍砲兵中尉李翰武砲兵聯隊附  
隊之附屬之件

以書翰於上云 陳者貴國陸

外務省

軍砲兵中尉李翰武砲兵聯隊附

命生、旨客自二十日附外法字牙七号

貴翰より御申越、趣了承致矣

右、陸軍省、及照會置直、成し、版

合氏ノ野砲兵中尉李翰武砲兵聯隊ニ大正

十年二月百三ノ六箇月間隊附也

ハ、此附付同、以前身一、中尉司令官

ニ出頭、同、中尉司令官ノ返書、受ケテ

✓度旨回答有之其間后、治牙  
達達方、然亦取斗相成、度此段  
回答旁本大屋、茲、重、閣下  
二向、敬意、表、之、矣

敬具

外務省

文書課長 松原

大正九年正月廿五日 接受

49

文書課

大正 九年 十二月 廿七日 附

別紙

大正九年正月廿七日 發送濟

送第一四四號

主任 第一課

主管亞細亞局長

植原次官

山梨陸軍次官

雲南省漢文學校卒業生函件

本件之圖レ本日付陸軍省

予、外務省同答、次官ハ當時

外務省

南洋事務代理、同才相成

ニ取同有、別紙寫、送選抜人名

表相添報共有之責、付

送在為、及即送附也

別紙 南洋事務代理、同才相成、南洋事務代理、同才相成、南洋事務代理、同才相成

要目付

大正十年一月十三日發

亞細亞局

第一課

丙辛字第二號

受013275

郵政印

敬啟茲因本國陸軍獸醫學校教習之人二等獸醫崔步  
瀛擬於本年三月回國服務查該獸醫現肄業  
貴國陸軍獸醫學校相應函達

貴大臣轉牒陸軍省准該獸醫於本年二月畢業歸國並  
希

見覆是荷茲本使對於

貴大臣特表敬意謹具

中華民國十年一月十日

中華民國特命全權公使

胡惟德

中華民國駐日



日本外務大臣伯爵內田康哉閣下



文書課長

大正十年一月十四日

大正十年一月十四日 起草  
同 日 附

大正十年一月十四日 發送

送第 六 號

主任 亞細亞局長

主管 亞細亞局長

了 垣原次官

山梨陸軍次官

支那陸軍士官學校校長 崔步瀛

歸國親出 同 又 併

支那陸軍士官學校教育職員

外務省

故より日本陸軍士官学校

校に在学中の士官學校校長崔步瀛

本年三月歸國せん同校教育職員

任用致度就... 月中... 年... 計...

し度... 令... 在... 邦... 胡... 支... 邦... 公... 次... 三... 事...

封... 有... 之... 官... 間... 漸... 在... 議... 上... 行... 令... 俄... 街...

固示相成度此段及照會云也

高

添付



201381册

大正十年一月十四日接受 亞細亞局 第一課

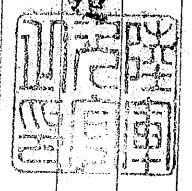
陸軍省 陸軍部 第九五號

支那國陸軍將校候補生退校ノ件通牒

大正十年一月十三日

陸軍次官山梨半造

外務次官植原正直殿



陸軍士官學校在學中ノ支那國陸軍將校候補生何言彰ハ軍人志望ノ意志ヲ放棄シ屢々校則ニ違背シ且日本語學ノ豫習不充分ニシテ成業ノ見込ナキモノト認メ十二月二十五日退校ヲ命セラレ候條此旨支那公使ハ通牒相成度候也

陸軍

3-2529

0288

文書課長

大正拾年一月十五日接

14

大正十年一月十四日起草

同八年八月十五日附

大正十年一月十五日發

送第 號

主任

物

以復性

(半瓦)

主管

笑

由木直  
地

在本邦  
支那公使

(陸軍士官学校在学中ノ候補生何言彰

退學ノ関ニ件)

外務省

以書翰致政上候陳者

軍者 陸軍士官学校在学中ノ支那

國將校候補生何言彰ハ軍人志望ノ

意志ヲ放棄シ屢々校則ニ違背之且

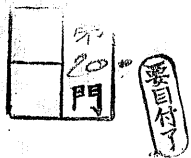
日本語學ノ豫習不充分ニテ成業未見

以テキモト認メ十二月二十五日退校ヲ命

二付右開下直轄方

右稱了知本後此候

長



青島本大臣公館ニ直呈テ閣下ニ向テ  
敬意ヲ表シ候  
敬具

外務省

3-2529

0290

202775

大正十年一月廿六日接

陸軍部 第三六九號

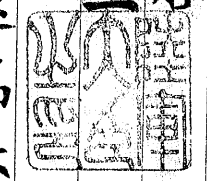
亞細亞局

第一課

支那國陸軍二等獸醫崔步瀛退學ノ件回答

大正十年一月二十五日 陸軍大臣男爵田中義一

外務大臣伯爵内田康哉殿



首題ノ件ニ関シ本月十四日附亞一送第六  
號ヲ以テ照會相成候趣了承來意ノ通二月  
中退校セシムヘク候條支那國公使ヘ回示方  
御取計相成度候也

陸軍

3-2529

0291

平信

第20門

文書課長

大正拾年壹月廿七日 發

大正 年 月 日 起草

同 年 月 日 附

大正拾年壹月廿七日 發

送第 號

主任

亞細亞局長

主管 亞細亞局長

了

集案本在

在 胡 文 邦 云 云 左 左

文部國陸軍之捐款長崔步瀛

詳於陳者我陸軍歡迎區學校

外務省

二、三、修業中、貴國陸軍之等

對區崔步瀛、

附外

字中、許貴、附外、謝了、取

紅、右、陸、軍、有、及、照、會、水、成、日、版

二、省、三、一、本、事、一、通、二、百、中、國、學、子

七、二、二、一、七、日、回、片、有、三、貴、國、右、標、本、承

知、相、成、度、院、院、

手印信如字云云

海書 校正原

大正十年一月二十日發 亞細亞局 第一課

丙午字第九號

03713號

敬啟本國陸軍步兵中尉王靜軒扈國珍楊煥彩等三名曾於去年入

貴國陸軍步兵學校學習通術機關銃均經終業在案茲擬於本年二月續入該校甲種學生肄業相應函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希

見復是荷茲本使對於

貴大臣特表敬意謹具

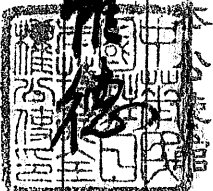
中華民國十年一月二十八日

中華民國駐日公使館

中華民國特命全權公使

胡惟德

日本外務大臣伯爵內田康哉閣下



陸軍、  
野史



少



第〇門

直印

文書課長 文書課  
長検印

大正十年二月三日 接受

大正十年二月二日起草  
同 年 月 日 附

列紙

大正十年二月三日 發送

通一 送第二十一號

主任 亞細亞局長

要旨付了

主管 亞細亞局長

了

外

陸軍省  
陸軍省  
陸軍省

陸軍省

文部省  
文部省  
文部省

陸軍省  
陸軍省  
陸軍省

外務省

陸軍省の高等技術院指揮官代行官王

中尉外三君が本年より该校甲種學生班に

入學のため取組むに在りて、その事務を

別紙寫し通申出治事有之、三月十日

議、上列各儀を以て、由田春相、松友

氏、松友氏、松友氏

別紙寫し通申出

陸軍省

陸軍省

受 5783

大正拾年貳月廿參日 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

第一課

支那國陸軍步兵中尉王靜軒外二名陸軍步兵

學校甲種學生トシテ入學方件 回答

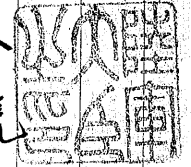
大正十年二月三日 陸軍大臣男爵田中義一

外務大臣伯爵内田康哉 敬

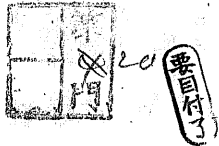
首題、件ニ関シ二月三日 送第二六號

以テ照會ノ通修業セシム候條此旨可然支那

公使ニ回示相成度候也



陸軍



文書課長 **松原**

大正十年二月廿四日接受

大正十年二月廿三日起草  
同日二月廿五日附

送第

號

主任

**松原**

大正十年二月廿五日發

在如部...  
陸軍

主管

**松原**

**中官**

在如部  
又即今使完

(又即陸軍省中尉王靜軒外二名

陸軍省學校甲種學生班入其六件)

外務省

村松陳君者為陸軍省中尉王靜軒氏  
外二名者為陸軍省學校甲種學生班  
入其六件之旨也其月二十日件外務省第九號  
考給員三六申請、取了以既也其陸軍  
省(及照會)及今擬回省了入其詳可  
及(又)方面者之如何有掃出承知古中  
所以取照復以查其件數也



復外下

要目付

受 6805 號

大正十年三月二日 鑒

亞細亞局

第一課

印 辛 字 第 十 四 號

子

敬啟本國陸軍砲兵中尉金鏡清陳自強曾於上年十  
二月八

貴國陸軍野砲兵射擊學校乙種學生班肄業在案查  
該班分馭法通信術兩科該中尉等係分兩期學習此  
次仍擬於四月一日續入該校乙種學生班肄業相應  
函請

貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希  
見復是荷茲本使對於  
貴大臣特表敬意謹具

中華民國駐日本公使館

中華民國十年二月二十六日

中華民國特命全權公使

胡惟

日本外務大臣伯爵內田康哉閣下



文書課長印

大正十年三月二日 發

大正十年三月二日 起草

同 年 三月 三日 附

大正十年三月三日 發送済

別紙

本署

異

送第六十八號

主筆

主筆

次官

次官

物

再四

山梨陸軍次官

支那陸軍砲兵中尉金鏡清外

一名陸軍野砲兵射擊學校引渡者杜方園之件

外務省

本件に關し令般胡支那公使司別紙  
実由に申出有之小二月キテ、右陸軍  
部上何句保法同示支那兵此  
般及此般也

外務省  
胡公使來信字滿所



20  
門

電

文書課長  
長  
文書課  
長  
捺印

大正十年三月三日 接受

32

海書  
校正  
原

大正十年三月一日起草  
同 年 三月 三日附

別紙

送第 號

大正十年三月三日 發送  
主任 齋藤 中

主筆 齋藤 中

印

次官

在本邦

胡本邦公使

(支那陸軍二等勲医 崔步瀛 公修業)

成績三関之件

外務省

拝啟陳者陸軍勲醫胡本邦公使  
修業先貴國陸軍二等勲医崔步  
瀛 修業成績三関之件今般陸軍有  
司引派矣其成績極之良好  
尤者迴謀有之亦在事者速附  
候 奉 右 様 以 系 公 事 本 邦 公 使 傳  
貴 意 候

別紙 成績三関之件 崔步瀛 公修業

在支那支那海軍公使 (陸軍)



受: 7548 號

大正十年三月九日 接受

陸軍省 陸軍第一〇三〇號

亞細亞局

第一課

署付

支那將校退隊ノ件通牒

大正十年三月九日

陸軍大臣男爵田中義一

外務大臣伯爵内田康哉殿



客年十月ヨリ六ヶ月間騎兵第二十六聯隊ニ  
隊附中ノ支那陸軍騎兵中尉趙鳴皋ハ本  
月十日ヲ以テ退隊セシメ候條此旨支那公  
使、通牒方可然御取計相成度候也

陸

軍

3-2529

0301

第20門

文書課長

大正拾年參月拾日 接受

大正十年三月九日起草  
同 八年八月十日附

大正十年三月十日 發送

送第 號

主任 高橋 三郎

主管 細野 長

次官

在本邦  
胡支那公使

(支那尉兵中尉趙鳴臬氏退隊)

関文件

外務省

拝啟陳者 癸亥年十月十六日 間騎兵  
第二十六聯隊二隊附中之貴國陸軍騎  
兵中尉趙鳴臬氏 本月十日附以退  
隊セシ之 趙氏 連日 艦方陸軍  
省より 申越有之 亥ニ付之 大保 氏  
知 五年 官比 依余 申 進 矣

署名

支那印務局

證書 校正

3-2529

0302

受 8200 號

大正十年三月十四日發受

亞細亞局

第一課

丙午年三月十七號

敬啟者有本國陸軍三等軍需趙恩綬陳烈二員擬赴  
 貴國陸軍被服廠見學兩個月以資練習相應函請  
 貴大臣轉牒陸軍省查照辦理並希  
 見覆是荷茲本使對於  
 貴大臣特表敬意謹具

中華民國十年三月七日

中華民國特命全權公使

日本外務大臣伯爵內田康哉閣下

胡惟德



中華民國駐日本公使館

印加文

文書課長 文書課長 大正十年三月十五日 接受 8 校正原 淨

大正十年三月十四日起草 同 年 三月十五日附 大正十年三月十五日發送

送第七號

主任 森

主管 次官

次官

山梨陸軍次官

高

支那三等軍需趙恩綏外一各

陸軍被服廠見字方三開元件

外務省

支那陸軍三等主計趙恩綏及陳烈

二名陸軍被服廠二於二月間見

字被服廠以今般胡公使司申出テ

以芽有之付之太可至次往議

上何分儀中同示古於及此級及四

會矣也